

須坂市消防本部 常備消防半世紀の歩み



現在の消防本部庁舎と訓練塔

昭和37年4月1日に須坂市消防本部・消防署発足以来、早や50年の歳月が流れました。発足当時の職員数は17名、翌年には24名に増員され勤務体制も三部制となる。



17名の須坂市消防本部発足

* 左写真は、発足当時の職員17名と消防ポンプ車

昭和38年8月12日に、消防庁舎が完成。

(現・須坂市中央公民館西館) 左下写真
なお、現在の市役所本庁舎は、昭和39年12月23日に落成しました。



市長特別点検時のポンプ車



昭和 37 年 11 月には、興行のため須坂を訪れていたサーカスの象による防火パレードを行った。
(左写真)

昭和 40 年 12 月 救急車 (バン型) を購入。

昭和 41 年 4 月 5 日松代地震 (震度 5) が発生し、住宅の損壊などで被害額は、2 億 5 千万円に上った。(この年の救急出動件数は 55 件)

昭和 42 年 4 月 消防職員を 31 名に増員。

昭和 42 年 12 月 10 日から、自動式電話に切り替わり、火事と救急は局番なしの「119」となる。

昭和 43 年 4 月 救急業務政令指定を受け、消防法に基づく救急業務開始。
(昭和 43 年の救急出動件数は 110 件)

昭和 44 年 1 月 須坂市石油商協同組合から、消火器 2 本を備えた 350cc のバイク (通称「赤バイ」) 1 台が寄贈される。また、小布施町、高山村、東村から救急業務応援協定の要請を受け、須坂市から一町二村への救急出動が開始される。

昭和 44 年 8 月 グリーンスタンプ(株)から救急車 1 台が寄贈され、救急車 2 台体制となる。この年の救急件数は、須高地区で 173 件。昭和 41 年 (業務開始時) の 3.15 倍となる。(救急出動件数はこの年 173 件)

昭和 46 年 4 月 東村が須坂市に編入合併され、人口 45,777 人となる。
東支所に消防署東分遣所を設置し、消防職員を 34 名に増員する。

昭和 48 年 4 月 消防職員定数 41 名 (実員 38 名) となる。
「須坂ハイランド」着工となり、高層階への対応のため翌昭和 49 年 1 月 35m 級はしご付消防ポンプ自動車 que 配備される。

昭和 49 年 救急出動件数が 500 件を超え、542 件となる。

昭和 51 年 3 月 日本自動車工業会からワンボックスタイプの救急車が寄贈され、救急車 3 台体制となる。

昭和 55 年 4 月 消防職員定数 44 名となる。(この年 6 月市役所東庁舎完成)

昭和 56 年 8 月 23 日早朝、台風 15 号による大雨の影響で、宇原川に土石流が発生。10 名の尊い生命が奪われる。この災害を教訓に、その後 8 月 23 日を「須坂市民防災の日」と定める。
(昭和 56 年の救急出動件数は 677 件。前年の 699 件から僅かに減少)



台風15号による土石流災害（昭和56年8月）



- 昭和 57 年 4 月 消防職員定数 45 名となる。
 6 月 3 日、須坂市を会場に長野県総合防災訓練が行われる。
- 昭和 62 年 4 月 小布施町及び高山村から消防業務を受託するにあたり、消防職員定数を 75 名に増員し、11 月から小布施分署、高山分署を仮発足する。
- 昭和 63 年 4 月 須高広域消防の業務を開始する。
- 平成 2 年 3 月 小布施分署に救急車を配備。（平成 2 年の救急出動件数は 1,022 件）
- 平成 4 年 4 月 消防職員定数 81 名となる。
- 平成 5 年 9 月 9 日、新消防庁舎（現庁舎）が竣工。
 10 月 救急救命士養成のため、職員 1 名を救急救命東京研修所へ入校させる。
 翌年 4 月から須坂市初の救急救命士が業務を開始する。
- 平成 7 年 1 月 17 日に発生した「阪神淡路大震災」による被災地救援のため、救助工作車 1 台と共に救助隊員 5 名が神戸市に派遣される。（21 日から 26 日まで）
 4 月 消防職員定数 90 名となる。
- 平成 8 年 12 月 小谷村蒲原沢地区で発生した土石流災害現場へ、延べ 12 隊 48 名の緊急消防援助隊を派遣する。（7 日から 16 日まで）
- 平成 12 年 4 月 消防職員定数 93 名となる。
- 平成 15 年 1 月 消防緊急通信施設（Ⅱ型）稼働開始する。（平成 15 年の救急出動件数 2,074 件）
- 平成 16 年 7 月 福井豪雨に伴う災害現場に消防職員 6 名を緊急消防援助隊派遣する。（18 日から 19 日まで）
 10 月 中越地震に伴い、緊急消防援助隊として高規格救急車 1 台と隊員 6 名を新潟県小千谷市の災害現場に派遣する。（25 日から 29 日まで）
- 平成 17 年 11 月 携帯電話からの 119 番通報直接受信が開始される。（この年の救急出動件数は 2,450 件）



蒲原沢地区での人命検索活動

平成 18 年 7 月 岡谷市で発生した土石流災害現場に、長野県消防相互応援協定に基づき、ポンプ車 1 台 隊員 4 名を派遣する。



平成 19 年 10 月 第 45 回長野県総合防災訓練・第 12 回長野県緊急消防援助隊合同訓練が、須坂市・小布施町・高山村を会場に行われる。

平成 22 年 3 月 須坂市消防本部初の CAFS 装置（空気泡圧縮消火装置）を装備した、水槽付消防ポンプ自動車を配備する。



平成 23 年 3 月 11 日午後発生した東日本大震災による被災地に緊急消防援助隊として述べ 45 名の隊員を第 7 次隊まで派遣する。



平成 23 年 1 年間の救急出動件数は、過去最高の 2,657 件(業務開始年の 48 倍)となる。

平成 24 年 2 月 長野県消防職員意見発表会において、関野消防士が須坂市消防本部として初の最優秀賞に輝く。(長野県代表として 4 月の関東大会へ出場)



平成 24 年 11 月 須坂市消防本部発足 50 周年事業として須坂市消防団音楽隊定期演奏会を実施。